

9月・10月の管理ポイント



平成26年9月9日

株式会社 トモグリーンケミカル

今年の8月は天候不順により、歴史的な日照不足となったそうです。さらに降雨による徒長が重なって、芝生内の糖分が不足していることが考えられます。秋の回復をスムーズにするためにも、資材による糖分の補給をご検討ください。

ホームページアドレス
<http://www.tomo-green.com/>

第131号



グリーンメカ・マリソパワー・光合成細菌

芝の呼吸過多による糖消費と土壌菌数の回復に...

残暑の厳しい9月は高温による芝の呼吸量が増加し、糖含有量は減少します。また、10月に入るとベントの生育期となり、糖の消費量も増大します。

糖が少なくなると特に根に影響を与えるので、グリーンメカでしっかり補給していきましょう。

7月、8月の高温ストレスから、少しでも早くベントを回復させるために、土壌中の硫化水素など根に直接影響を与える有害ガスを軽減させましょう。光合成細菌とマリソパワーを組み合わせることによって、嫌気性の土壌(排水の悪いどぶ臭い土壌)を改善し好気性の有用菌の定着を目指します。

使用量：グリーンメカ 5~10ml/m² マリソパワー 2~4ml/m² 光合成細菌 1~10ml/m² 0.5~1.0L/m² 散布



サッチ・マネージャー

秋の除草剤散布に合わせて...

ラフ、FWのサッチ分解には、乳酸菌、バチルス菌、酵母がバランス良く配合された微生物資材サッチ・マネージャーがおすすめです。サッチ層が軽減されることにより、肥料のリサイクルはもちろん農薬の効果の安定化が期待できます。水溶性製剤なので、秋の除草剤散布時に混用すれば手間がかかりません。

使用量： 0.1~0.2g/m² 0.2L/m² 散布



サッチ・リムーバー

グリーンのサッチ層除去には...

グリーンは更新作業時にサッチ・リムーバーで、サッチ層を軽減しましょう。

サッチリムーバーは酵素製剤なので、殺菌剤を多用するグリーンの土壌中でも安定して働きます(農薬との混用もOKです)。分解されたサッチは、糖類やチッソ源となり、植物や他の微生物のエサとして再利用されます。

使用量： 1~2g/m² 0.5L/m² 散布



プライマーセレクト・アクアダクト(SWDG)

残暑に備えて均一な水分分布を...

残暑の厳しい9月は、油断するとすぐにドライスポットが発生してしまいます。

プライマーセレクトを処理することによって、均一な水分分布を目指し、乾燥害からグリーンを守りましょう。ドライスポットを出してしまったら、速効性のアクアダクトを処理して、すばやく回復させましょう。

使用量：1~2ml/m² 200ml~1L/m² 散布、SWDG(粒剤)：10~20g/m² 散布回数：プライマーは1ヶ月~1ヶ月半に1回、アクアダクト(SWDG共に)は随時使用



スティンガーフロアブル・ガードワン水和剤

害虫多発生時のローテーション散布の一剤として...

9月、10月はスジキリヨトウ・クシナシスジキリヨトウ幼虫の発生をはじめ、タマナヤガ幼虫、シバツトガ幼虫と多種の害虫が活発に活動する時期です。

殺虫剤の散布回数が多くなる時期ですから、薬剤の耐性予防としてローテーション散布を行ないましょう。

スティンガーFLはジアミド系で、食毒効果が長期間期待できるので、チョウ目害虫が多種混在するこの時期には最適です。またガードワン水和剤も、IGR剤(脱皮促進剤)なので、有機リン系やカーバメート系、合ピレ系を使用しているゴルフ場にはローテーション散布の一剤として、この時期に安定した効果を発揮します。

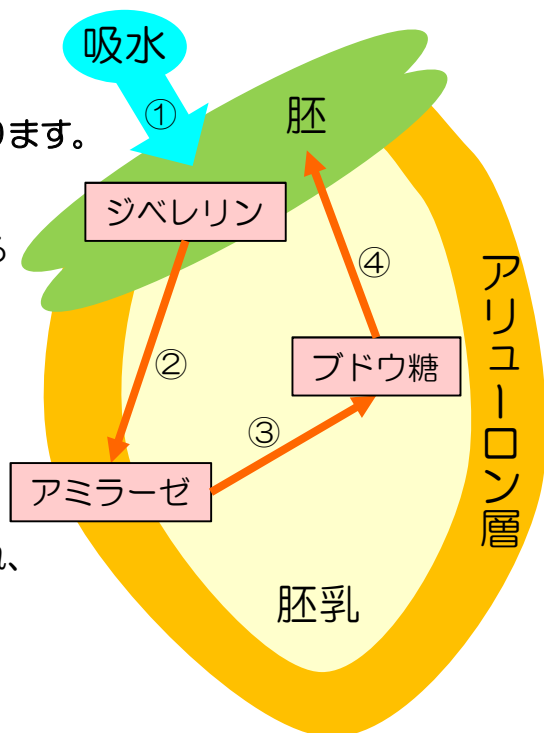
使用量：スティンガーFL 4000倍 0.2L/m²、ガードワン水和剤 4000倍 0.3L/m²

タネにおけるジベレリンの働き

芝生管理の場面では、刈込回数軽減や芽数増加のためのジベレリン生合成阻害剤の活用がポピュラーになってきました。しかし、植物ホルモンとしてのジベレリンの働きは非常に多様で、植物の生育段階によっては必要不可欠な要素です。今回はその一例として、イネ科植物のタネにおけるジベレリンの働きを紹介します。

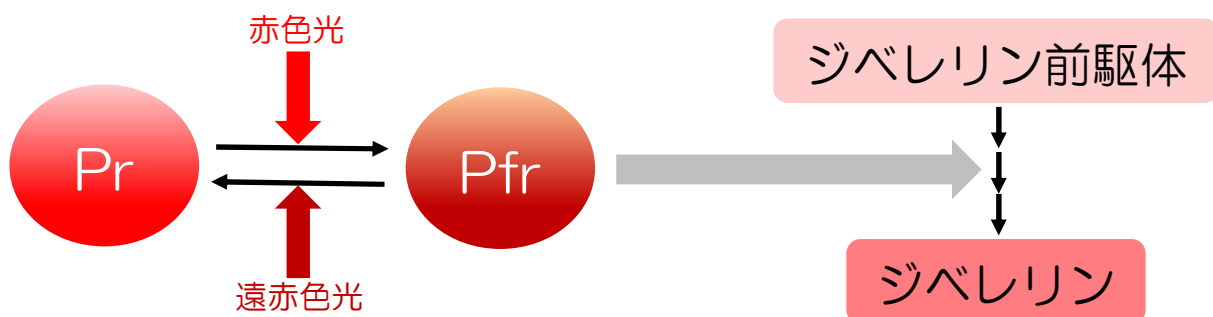
イネ科植物の種子は、次のようなプロセスを経て発芽に至ります。

- ① 種子が十分に給水すると、胚内でジベレリンが合成される
- ↓
- ② ジベレリンが胚乳を取り巻くアリユーン層に移動して、アミラーゼの合成を誘導する
- ↓
- ③ アミラーゼが胚乳に貯蔵されたデンプンを分解し、ブドウ糖ができる
- ↓
- ④ 胚に吸収されたブドウ糖が基質となって好気呼吸が行われ、発芽のためのエネルギーが生産される



色素とジベレリンの関係

今年の3月・4月の管理ポイント「光に対するタネの反応」の中で、発芽を促進するPfrという色素を紹介しました。実はこのPfrという色素は、ジベレリンの合成を促すことで発芽を促進しています。赤色光を当てられてPfrが増加したタネの中では、ジベレリンの量も増加します。



発芽生育の面からみると、ジベレリンは非常に重要な要素です。ジベレリン生合成阻害剤は、芝生管理において無くてはならない剤になりつつありますが、上記の事から、播種作業前後の使用は特に注意が必要となります。